

地蔵菩薩（お地蔵さま）

地蔵菩薩の「地蔵」というのは、サンスクリット(梵語)の「クシティ・ガルバ」ということばを漢訳したものです。

クシティは「大地」の意で、ガルバは「胎」とか「蔵」と訳されています。つまり、「大地の母胎」ということを意味しているのです。この地蔵菩薩は、インドの大地の神の一種で、財宝をつかさどる神であったというのが定説です。

地蔵菩薩について辞書を引くと、「釈尊が入滅されてから、弥勒菩薩が下生して仏になるまでの間、無仏の世界に住んで六道の衆生を救済する菩薩」と説明されています。

菩薩とは道を求めて修行中の身をさすことばですから、厳密な意味では、お地蔵さまや観音さまは仏ではありません。しかし、広い意味では、菩薩、明王、如来などをまとめて仏ととらえていますから、お地蔵さまを仏と呼んでもいっこうにさしつかえありません。

当山のお地蔵さまは平成 6 年に六地蔵として祀られました。毎年春の婦人会総会の折に供養祭を行っています。

この六地蔵は六道（天上・人間・阿修羅・餓飢・畜生・地獄）をあわらしたもので、

天上・・・日光地蔵六地蔵（預天賀地蔵）＝宝珠。

人間・・・除蓋障地蔵（放光王地蔵）＝数珠。

阿修羅・・・持地地蔵（金剛幢地蔵）＝幢。

餓鬼・・・宝印地蔵（金剛悲地蔵）＝香炉。

畜生・・・宝珠地蔵（金剛宝地蔵）＝錫杖

地獄・・・檀陀（だんだ）地蔵（金剛願地蔵）＝蓮華

個々の名称については一定していない。文献によっては以上のいずれとも異なる名称を挙げている物もある。持物と呼称は必ずしも統一されていない。

真言 オン カカ カビサンマエイ ソワカ